

決済の未来と中央銀行の役割

2024年12月4日
FISC創立40周年記念講演会

日本銀行総裁
植田 和男



■ 決済システムの発展とデジタル技術

- マネーの本質 —利用者の信認の維持—
- デジタル技術の発展と決済システムの改善

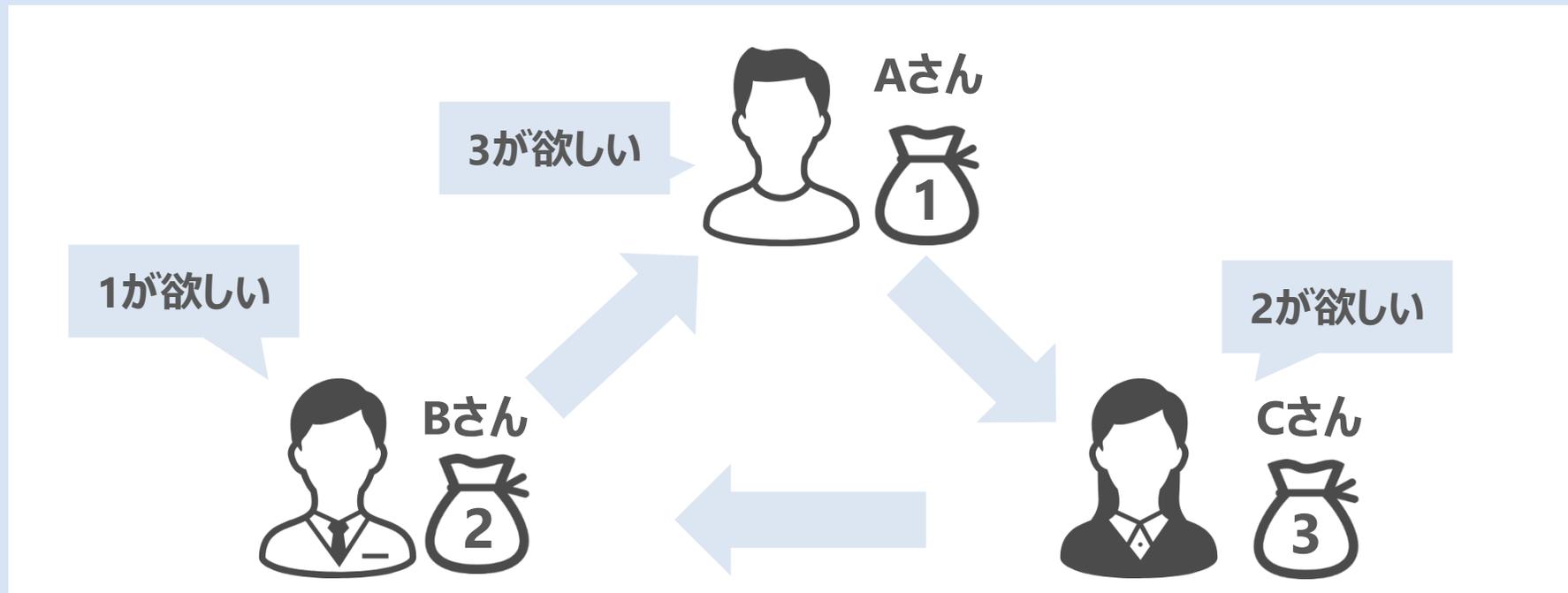
■ デジタル化の進展

- デジタル経済圏
- DLTの登場
- 決済手段のデジタル化を進める際の留意点

■ 決済システムの未来を考える視点

- 伝統的な決済システムの利点と課題
- 通貨・決済システムの構造と求められる性質
- 日本銀行の取り組み

(図1) お金の必要性



貨幣による交換がこの状況を解消

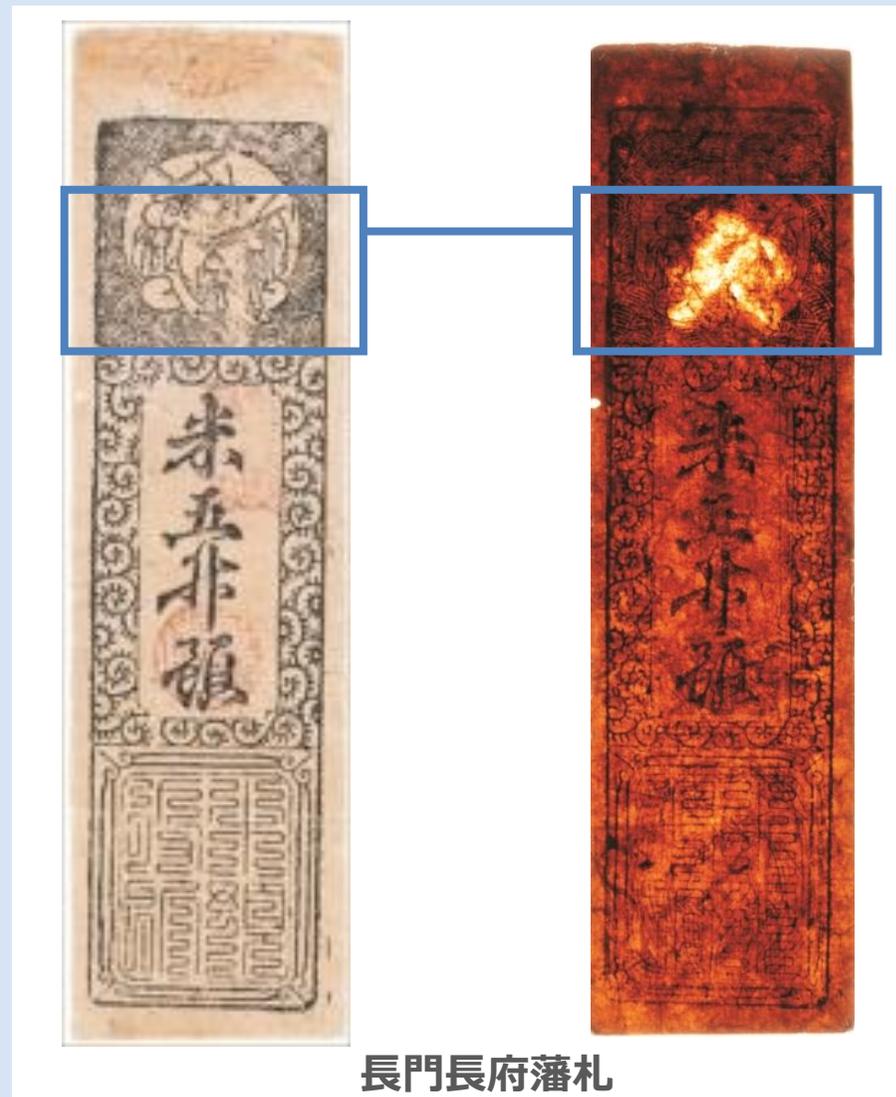
The text '貨幣による交換がこの状況を解消' (Exchange by currency resolves this situation) is centered in a white box. Below the text are two icons: a stack of Japanese yen banknotes on the left and a stack of coins on the right.

マネーの本質 —利用者の信認の維持—

(図2) 江戸時代における偽造対策

隠し文字

透かし

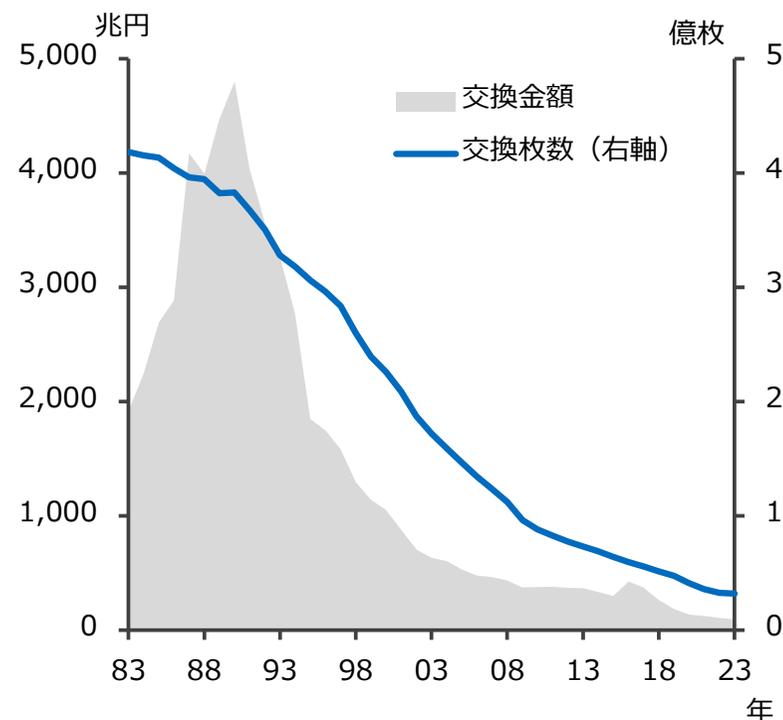


デジタル技術の発展と決済システムの改善

(図3) 決済システムの発展の歴史

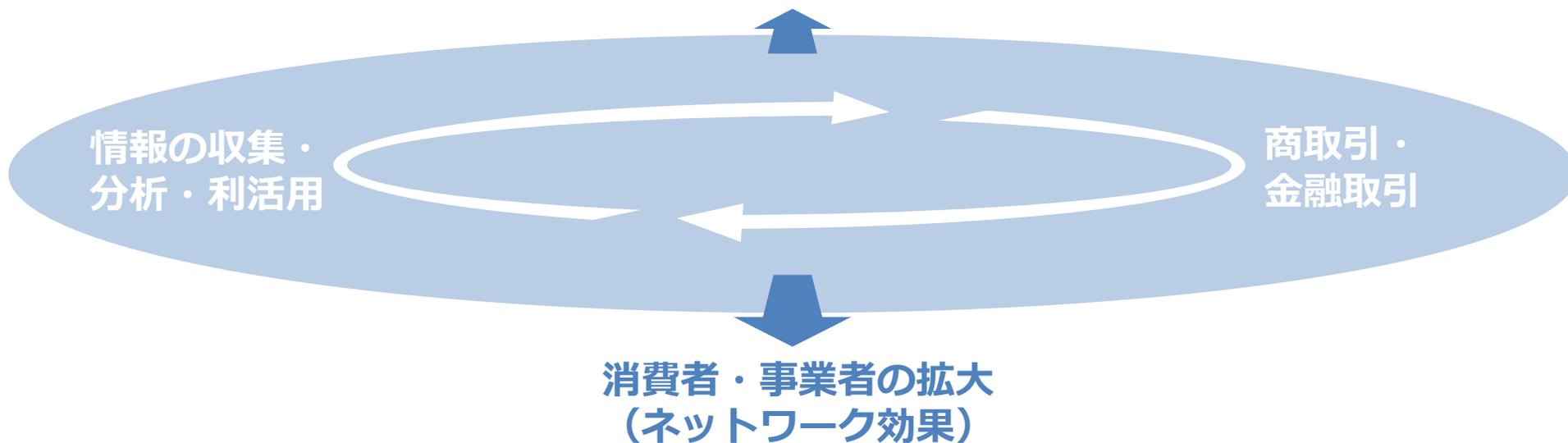
1970～	全銀システム稼動開始
1980～	日銀ネット稼動開始
1990～	国債DVPシステム稼動開始 国債決済のT+7化 国債決済のT+3化
2000～	日銀ネット（当預・国債系）のRTGS化 国債・CPのペーパーレス化 一般債のペーパーレス化 投信のペーパーレス化 上場株式のペーパーレス化
2010～	国債決済のT+2化 国債決済のT+1化 全銀ネット・モアタイム稼動（24/7化）
2020～	電子交換所稼動開始

(図4) 手形・小切手等の交換高推移



(出所) 全国銀行協会

(図5) デジタル経済圏の拡大



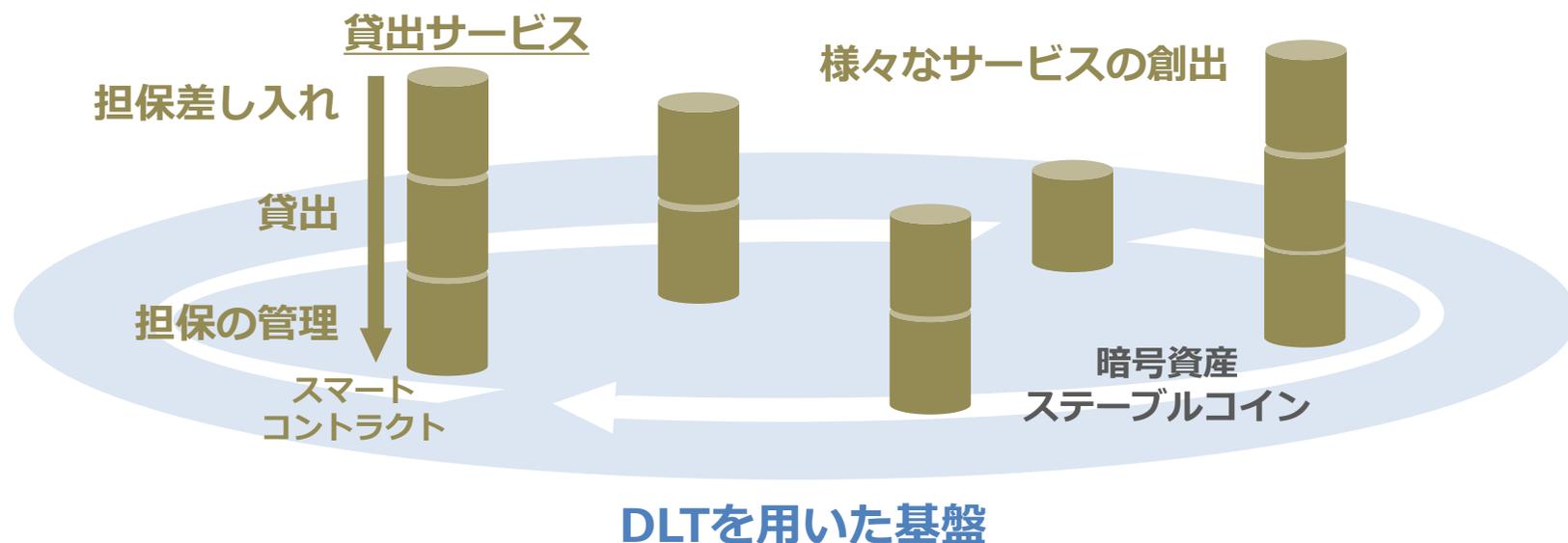
メリット

様々な商品やサービスへのアクセス向上
キャッシュレス決済の拡大

リスク

独占・寡占の可能性
決済のフラグメンテーションによる社会的なコスト

(図6) DLTを用いたデジタル資産の経済圏の形成



メリット

- 新たなサービス創造の可能性
- 利用コスト低下の可能性
- アクセシビリティ向上の可能性

リスク

- 利用者・投資家保護の不備
- 不具合が生じた場合に影響が拡散する可能性

決済手段のデジタル化を進める際の留意点

	期待	課題
相互運用性の確保の重要性	キャッシュレス決済の選択肢の広がり	決済のフラグメンテーション
DLT等の意義と課題の理解	複数の当事者間で帳簿を共有する仕組みの構築 スマートコントラクトの活用可能性	システムのガバナンス スマートコントラクトのリスク
サービスのレジリエンス確保の重要性	様々な財・サービスへのアクセス拡大	サイバー攻撃等のリスク
国際的な標準化の重要性	クロスボーダー取引の円滑化・効率化	—

伝統的な決済システムの利点と課題

■ 伝統的な決済システムの利点

- 伝統的な決済システムで大きな役割を果たしている預金通貨
- 預金通貨の特徴は、銀行による信用創造機能があること
 - ⇒ 大口の資金決済に柔軟に対応することが容易

■ 伝統的な決済システムの課題

- クロスボーダー決済の分野では、コストが高く、時間がかかることが多い

■ 利用者の信認の確保

- マネーの価値の安定
- 一般受容性

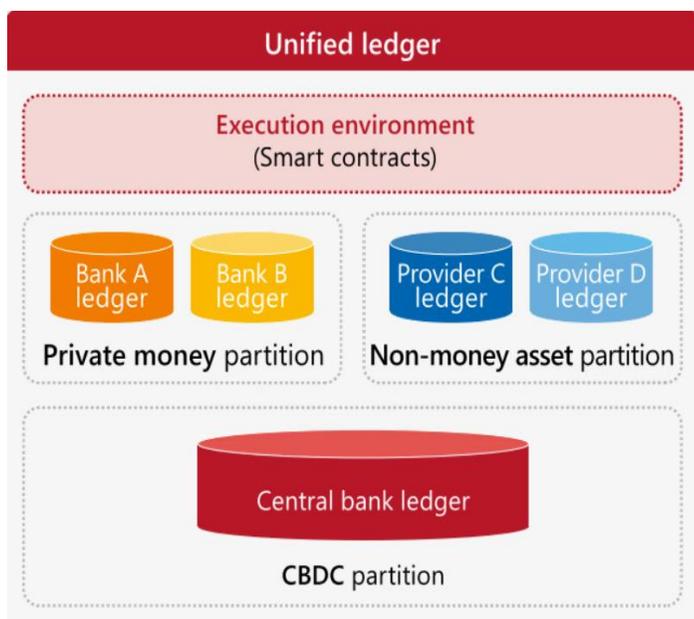
■ 民間マネーと中央銀行マネーの役割分担

- 社会的な影響度に応じたシステムの頑健性や代替機能
- デジタル社会における競争領域と非競争領域とは

日本銀行の取り組み

■ プロジェクト・アゴラ

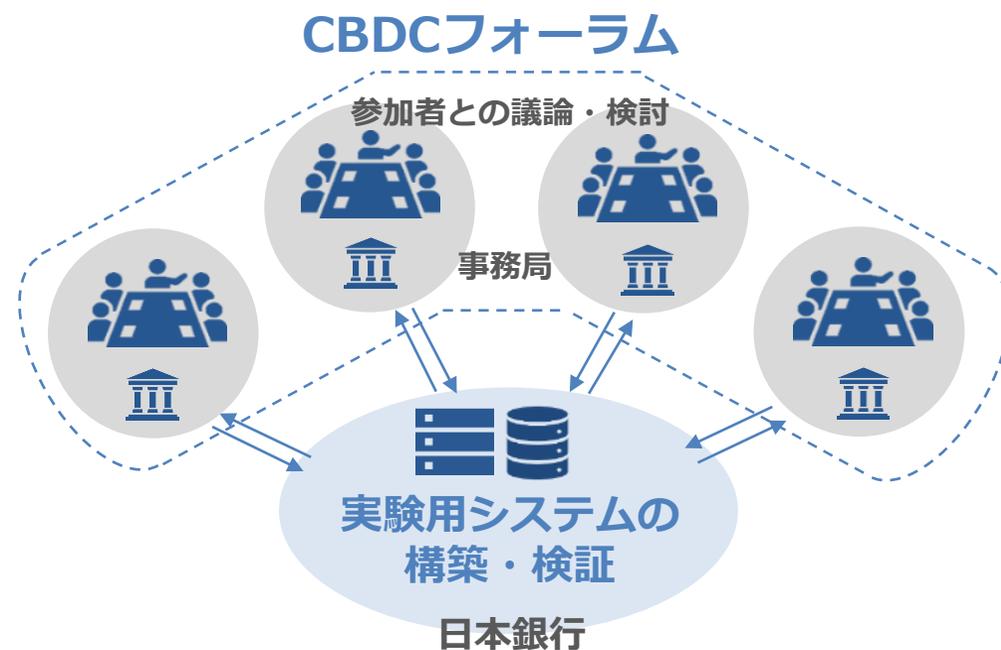
- クロスボーダー決済の改善に向けたBISの実験プロジェクト
- 「統合された台帳 (Unified Ledger)」というコンセプトに基づき、中央銀行預金と民間銀行預金を同じ台帳にのせ、通貨システムの二層構造を維持しながら、円滑なクロスボーダー決済を実現する方法を検討



(出所) Annual Economic Report (BIS, 2023)

■ 一般利用型CBDC

- 2023年4月からパイロット実験を実施
- パイロット実験は、技術的な実現可能性を検証するための「実験用システムの構築と検証」と、民間事業者の技術や知見を得る場である「CBDCフォーラム」の2本柱で構成



■ 決済の未来を考えるポイント

- マネーの本質の理解：
利用者の信認を持続的に確保する仕組みづくり
- 経路依存性の理解：
新たな技術と既存の制度や実務との調和
- 中央銀行と民間主体の役割分担の理解：
デジタル社会におけるインフラとしての決済領域